

# ②1 福崎町・姫路市連携コミュニティバス【ふくひめ号】運行社会実験

## メンバー

**実施者**：兵庫県 福崎町  
**連携団体**：兵庫県姫路市、福崎町工業団地協議会、溝口ニュータウン自治会、神崎郡自立支援協議会

## 活動目的

- ・ふくひめ号を活用した公共交通空白地域の解消及び市町間交流・連携による広域行政（公共交通分野）の推進
- ・公共交通への転換及びＪＲ播但線の利用促進・２次交通の確保
- ・福崎工業団地への就業者確保及び障がい者就業支援の推進

## 対象地域：

兵庫県福崎町、  
兵庫県姫路市溝口・  
船津地内

**人口：**  
約15,000人



## 取り組み内容

**キーワード：**市町間連携／二次交通の確保／障がい者雇用の推進／クロスセクター効果算出

- ①市町間連携コミュニティバス（ふくひめ号）の運行実証実験（R2.10.1～R3.3.31）  
公共交通空白地域の解消、ＪＲの利用促進、企業の雇用確保及び障がい者就業支援を目的に実施。  
利用者数16,348人（目標は下回ったが、コロナ禍においても利用者数は徐々に増加傾向にある）
- ②運行にかかる効果分析業務（利用者・住民・企業アンケート及びクロスセクター効果分析）  
分析により、ふくひめ号への財政支出は「地域を支える効果的な支出」であることが確認された。

## 2020年度の活動実績

- ・ふくひめ号の運行社会実験、利用者・住民・企業アンケート調査及びふくひめ号運行社会実験の効果検証
- ・ふくひめ号運行社会実験実施協議会（連携団体で組織した協議会で年3回実施）
- ・企業及び姫路特別支援学校によるふくひめ号を利用したキャリアガイダンス



## 取り組みが地域に与えた影響

## 専門家コメント\_グロ-加交流推進機構

アンケート調査やふくひめ号の利用状況、クロスセクター効果分析等によるふくひめ号運行社会実験の効果検証

- ・公共交通空白地であった地域での移動手段を確保  
地区居住者の移動手段の確保や交通空白地の解消。市町間や鉄道駅への移動手段として外出機会の創出や市町間交流に寄与
- ・自動車から公共交通（ふくひめ号）への利用転換  
利用以前の移動手段として自動車（自分で運転・送迎）の方が一定数いたことから、公共交通への利用転換が図られている
- ・複数市町間及び官民連携の強化  
市町相互の地域公共交通会議への参画、行政と企業等による協議会が立ち上がるなど、民間企業や自治会とも連携している
- ・利用者からの多数の感謝の声  
自立支援協議会等以外にも、住民から運行継続や感謝の意見が多く、地域に必要不可欠な移動手段として確立し始めている

生活圏が一体となった行政境界にあたる地域で、市町間の共同運行を実現しました。行政主体の運行でありながら、工業団地やニュータウンなど、沿線の関係者が主体的に利用促進に取り組むことで、行政と沿線地域が連携できたことも特筆すべき点です。  
利用者数はもちろんのこと、特別支援学校の生徒さんの企業実習や通勤手段として活用されるなど、それぞれの人の人生や生活を支えるという意味でも意義深い好事例だと思います。

## 取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

- ・多くの関係者が連携して実現した事業である。行政だけでなく、地域が危機感を持って自分たちで考えていくことが必要
- ・高齢化が進む中では、公共交通の導入により住み続けられる地域の維持に繋がる